***ＮＰＯ・地域人権だより*№.60**

**発行：ＮＰＯ法人 地域人権みんなの会**　　　　　　　2022年12月26日

岡山市北区下伊福西町1－53 　℡&FAX　086－254－9555　http://minnanoie.org/　　発行責任者　中島純男

2022年度あなたとともに考える人権学習集会

48年前の「八鹿高校事件」をあらためて検証　71人が参加　12月3日

今年は全国水平社100周年。NPO法人地域人権みんなの会は12月3日、岡山県立図書館で「あなたとともに考える人権学習集会」を開催しました。部落解放運動史や教育史上で例のない集団暴力事件「八鹿高校事件」の映画上映と、現地から前田武・兵庫県人権連事務局長が当時の実態を報告。県下から71名が参加し、言論抑圧や分断をはかる今の社会を人権の視点からみつめ、人間の尊厳について認識を深めました。

「八鹿高校事件」は、1974年11月22日、兵庫県八鹿高等学校の70数名の教師が、白昼、部落解放同盟を名乗る数百人の集団に襲撃され10数時間にわたって凄惨なリンチを加えられるという事件。映画を通して、新聞、テレビ、ラジオ等が真実の報道すらためらい続けた本事件の真実と、暴力に抗して立ちあがった勇気ある人々の闘いが伝えられました。

上映後、事件当時、現地で暴力糾弾に反対する活動を行った前田さんから「八鹿高校事件とは」と題して講演がありました。

前田さんは「48年前の暴力事件だが、部落解放同盟（解同）と行政・警察権力の癒着した事件を今、検証することが大事だ」と強調。

事件前年に解同が自治体を糾弾で屈服させ「窓口一本化」行政を強制。権力は解同への数億円の補助金を出し、その狙いには「権力が解同をつかって県知事選挙で社共の分断を図ってきた。八鹿高校事件の本質はそこにある。権力犯罪だ」と述べました。

八鹿高校は部落問題学習に対して早くから「部落問題研究会」をつくり熱心に取り組んできたが、そこに解同は解同介入の「部落解放研究会（解放研）」をつくれと要求。解同が八鹿高校を糾弾の糸口にする狙いで「八鹿高校は差別教育」だと主張していました。

しかし前田さんは「八鹿高校は独自の生徒自治会があり民主的教育が進んでいた。『先生が殺される』と真っ先に立ちあがった生徒1000人が河原に集結したことで、生徒に勇気づけられた町民や全国の支援者で解同の暴力に反対する1万7500人の大集会が開かれた」と背景を語り「八鹿高校の生徒は行動的で立派だった」と振り返りました。

2016年に部落差別を永久に固定化する「部落差別解消推進法」が制定され、もう一度国民を分断させるためにつくられたとし「権力と解同との癒着は今も残っている。八鹿高校事件はまだ終わっていない最後まで闘っていく」と決意を語りました。

続いて当時岡山から現地支援に入った2名からエピソードが語られました。長田悟県人権連副議長は、町に入ると大音量のスピーカーが聞こえ異様な雰囲気だった。それでも解同の暴力主義を厳しく糾弾する全国から結集した1万人の人々の抗議集会とデモ行進は圧巻だった。町の人は手を合わせて涙を流し、家の2階から身を乗り出して手を振る人などデモ隊を歓迎してくれた。私にとって生涯で一番の感動的な出来事」と語り、この事件を契機に部落解放運動の正常化を目指す運動が全国的に高まり、今日の人権連組織になったと経過を説明しました。

藤澤末博副議長は、「現地でビラ配りや宣伝をしていたところ解同に遭遇し暴力被害に合った。道路標識やハンドマイクのスピーカーで殴られ血だらけになる仲間もいた。50年経つ運動の中でこの一件だけは鮮明に覚えている。当時先頭に立ってくれた人の多くは亡くなった。経験をつたえていかなくてはいけない」と今の時期に継承しておく必要性を語りました。

閉会あいさつで中島純男会長は、国民の声を抑えて閣議決定だけで物事を決める自民党政治に対し「差別を分断や懐柔に利用する政治的風潮があり、物言わさない時代をつくろうとしている。表現の自由などの抑圧につながれば、本当の意味での人権確立はない。私たちは政治的革新を人権の視点で変えていく取り組みが必要。改めてこの八鹿高校事件から考えていきたい」と結びました。

「八鹿高校事件」学習集会に参加されたみなさんからの感想

★私も当時明石の方で勤務しており、現場に行ってデモにも参加した経験があったので、あの映像を見て、「ああ通ったとこだ」とか「あの橋のむこう側の家のガラスごしにおばあさんがこちらに手を合わせてくださっていた」とかよみがえりました。

帰ってからも「結婚差別」の糾弾会があるから参加してくれと上司に言われ、断ったら「自分がやられるからなんとか参加を！！」と頼まれて行ったこともあります。それはもうひどい罵倒！！でした。

こんなひどい暴力や威嚇で自分のやりたいことを押し通す、それに対して物言えない空気、こんなことを二度と繰り返してはいけないと思います。

今の政治情勢も危ないものを感じます。戦争へ向かわないように！！と願います。

人権をしっかり自覚的に守ることをしないといつの間にか流されてしまうと思うので、また、いろんな形で人権について考える機会を作ってください。

そして、声をあげなければ消されてしまう弱い立場の人間が力をあわせて平和な社会への一歩をおしすすめていけるようになりたいです。

★知らない事まだまだたくさんあるなと思った。何を信じたらいいのか、第三者だから感じることも多いけど、当事者だったら・・・。どちらの立場にいるか・・・と悩むところ。暴力はよくない。ただ本当にその場にいないとわからないなと感じた。

★私の大学時代の忘れられない事件でした。その日、大学祭で盛り上がり、私の下宿の部屋に11人集まって徹夜でワイワイとしゃべり続けていた。夜明けを迎え、新聞配達から帰ってきた友達が大変だ！と帰ってきて、みんなで赤旗新聞１面の「八鹿高校事件」報道、法治国家の日本で、教育現場で、こんなことがあるのか信じられない！他の新聞、ニュースでまったく知らされないのはなぜ？

真実を報道するのが赤旗しかなかったこともみんなで驚き怒ったのを覚えています。映画を、多くの運動、闘いの財産を残すこと大切と思いました。改めて当時の学生の役割、たくましさに感動するとともに警察が守るべき人を守らなかった事、検証されるべきと思いました。

この映画を多くの人に観てもらいたいと思います。

★当時、岡山県立高校に勤務していました。先生方の間で不穏な空気が漂いました。八鹿高校事件のニュースがとびこんできたからです。凄惨な様子に私まで同じような目にあったようで心が痛みました。先生方もその後、支援活動に八鹿まで行っていました。

今日ここにこさせていただいたのは、あれほど衝撃を受けたにもかかわらず長い年月を経て、あの事件が自分の中で風化しかかっていることに気づきもう一度想い起こそうとの気持ちでした。あの頃の八鹿高校の先生方は今頃どのように過ごしておられるのか・・・。そのことも含め忘れないようにしようと思います。

ありがとうございました。

★貴重な映画を見せていただきありがとうございました。八鹿高校事件という文字をみて、そんな事実があったなあと思い出しました。岡山からの支援者の方の話も良かったです。よくわかりました。

★分断のために部落問題が利用された事件として忘れてはならないと思う。生徒たちの行動、自治活動がすばらしい。民主主義を育てていく大切さを感じる。自由に議論し、暴力をなくしていくことが民主主義の基本となる。

声をおさえていく時代。暴力を許す時代。人権をおさえていく時代が戦争へと進むのではないか。

★当時の赤旗の報道以来、この非道な事件は忘れていません。暴力と警察の癒着は今もありますが非常に腹立たしいです。

★映画で当時の様子がよくわかったような気がします。知らないことばかりで、まずは知ることが大事だと考えさせられました。映像が残っていることは貴重だと思います。忘れさられ、まるでなかったことかのようになること、それが一番こわい。自分も改めて学ぼうと思いました。

ありがとうございました。

★今日にも起こりうる事件だと思います。

人権学習の必要を考えさせられます。

★力で屈服する権力構造について改めて怒りを覚えました。（現在も統一協会と自民党の癒着が表出されてます）

私の弟の妻が教師をしており、生徒から家に尾行されたり、スカートをめくられたりとした話を聞いておりましたので、今日の映画はとても胸が熱くなりました。

★こんなことが起きるのかと思うような事件です。警察も行政も機能しない異常な事態です。

韓国の光州事件を思い出します。このような事は二度と起こってもらいたくないです。

★当時学生自治会の役員をしていて、八鹿高校事件以後ニセ左翼暴力集団との闘いが続いた。

彼らには「反共」の一点で右翼的な勢力も合流した。大学構内へ集団で宣伝行動に入らざるを得ないという状態だった。当時共に闘った仲間の絆は強く、現在も各地で活動している。

★ありがとうございました。詳しい内容がわかり、とても有意義でした。

実は何も知らなかったということを痛感した時間でした。

★八鹿高校事件の歴史、背景などよくわかった。

★Very Good

★八鹿にも応援に行きました。当時、高教組の大会で八鹿事件を報道すると、社会党支持者はきまって「アカハタのデマを言うな」「事件は何もなかった」と平然と反論してきました。

体育館で教師たちが暴力を受けていたそのとき校外で待機していた兵庫県警の機動隊員のＳは指揮者がまったく救出に動かないのに立腹して、県警を辞職して教員に転職して私の職場に赴任してきました。

★「八鹿高校事件」の映画、ぜったいに観た方がいい！！と聞いたので参加しました。こんなことが起こっていいのか・・・と思いました。

ひどい・・・暴力で相手に言うことを聞かせるなど、絶対にしてはならない。なぜ部落解放をうったえているのに、人権を勝ち取るためにたたかっている仲間が暴力にうったえるとは本末転倒ではないか。

もちろん昔から部落の人が受けてきた人として扱われてこなかった事を考えると怒りが起こるのは解るけど、暴力を暴力で返しては何の解決にもならないと思いました。高校生の勇気ある行動、みんなに知らせるために新聞を作ったこと、すばらしい行動、見習いたい。

★映画が良かったです。詳しく事件を知ることができました。今も分断をはかられていることが解放運動の中でも明確にわかりました。それにしても「生徒の力」、これこそ先生たちの民主教育のたまものだったんですね。歴史を振り返ることの大切さを感じました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

たくさんのアンケート、ありがとうございました。当日の集会で話していただければより深まったのではと思うような、それぞれ貴重な感想をいただきました。もっと時間があれば、「あなたとともに考える人権学習」というメインテーマにさらに近づけたのに、と思ったりします。せめて紙面で紹介させていただきました。（中島）

ソワニエ看護学校生への食料支援　　12月15日

コロナ感染は第８波、岡山県内で新規感染者は



連日3000名を超す勢いです。

看護学校生、特に実習する３年生は、このコロ

ナのためアルバイトもできません。収入が途絶え

るなか食生活に困窮する学生さん、それを黙って

みておくわけにはいかない、と多くの団体が支援

されています。

私たちも、１２月１５日、３つの事業所と法人本

部に集まった支援物資を、中島会長とななくさの

管理者・住宅さんがソワニエ看護学校へ届けてきま

した。

2021年３月３日、2022年４月２８日に続いて、今回で３回目。到着すると職員の方たちが出てきてくださり、物資を玄関先に運び込んでくれました。お米、カップラーメン、乾麺、インスタント味噌汁、お菓子、レトルト食品、缶詰、調味料、それにペーパーなどでした。今回は、特に農家の方のご協力もあり、お米が５０㌔以上集まりました。ありがとうございました。

短信

　当法人が加盟する全日本民医連の声明を紹介します。私たちも取り組みたいと思います。

**いのちより軍事を優先する岸田内閣による安保関連３文書改定に抗議し、撤回を求める**

2022年12月17日

全日本民主医療機関連合会

会　長　増田　剛

１２月１６日、岸田内閣は安保関連３文書の改定を閣議決定した。今回の改定は戦後日本が堅持してきた「専守防衛」の方針を大きく転換し、「先制攻撃」も可能にする戦争する国づくりへ向かうものである。全日本民医連は、安保関連３文書の改定に抗議し、閣議決定の撤回を求める。

今回の安保関連３文書(「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」)の改定では、敵基地攻撃能力(反撃能力)の保有・侵略的兵器の増強・軍事費のＧＤＰ比２％以上などが盛り込まれ、戦争する国づくりへと猛進するものである。

「軍事費のＧＤＰ比２％以上」を2027年度までに実現するための予算規模は５年間で最大４３兆円となる見込み。この財源は、国民へのさらなる税負担によってまかなおうとしている。物価高によってすでに国民の生活は困窮している。物価高に全くの無策であるにもかかわらず、大軍拡のためにさらに増税し、社会保障を削減することによって、国民の暮らしを破壊する暴挙は許されない。

武力で平和はつくれない。日本国憲法を生かした平和外交によって、アジアと世界の平和構築に貢献するべきだ。そして、私たちの税金は、軍備増強ではなく、国民のいのちと暮らしを守るため社会保障の充実にあてるべきだ。

国会での議論もなく、民意を問うことなく、戦争する国づくりへ進むことは許されない。全日本民医連は、戦争する国づくりではなく、いのちと暮らし優先の社会保障が充実した国づくりを求めて、幅広い市民・団体との協力・共同のもと、たたかいを続けていく。　　以上